



# 水道の水になるまで

わたしたちの生活になくてはならない水道の水は、「奥池浄水場」、「奥山浄水場」という2箇所の浄水場で、芦屋川から水を取り入れてつくられた水(自己水といえます)と、阪神水道企業団でつくられて買った水(受水といえます)があります。それぞれの浄水場では、いろいろな施設を通して、きれいで安心して使える飲み水となります。

※図は奥山浄水場の浄水方法を示したものです。

一人が一日に使う水道水の量  
約            l  
1.5lのペットボトル約            本分

芦屋市に埋めている水道管の長さ  
約            km  
JR 芦屋駅から JR            駅付近まで

芦屋市全体の一日に使う水道水の量  
約            m<sup>3</sup>  
小学校のプール(450 m<sup>3</sup>)約            杯

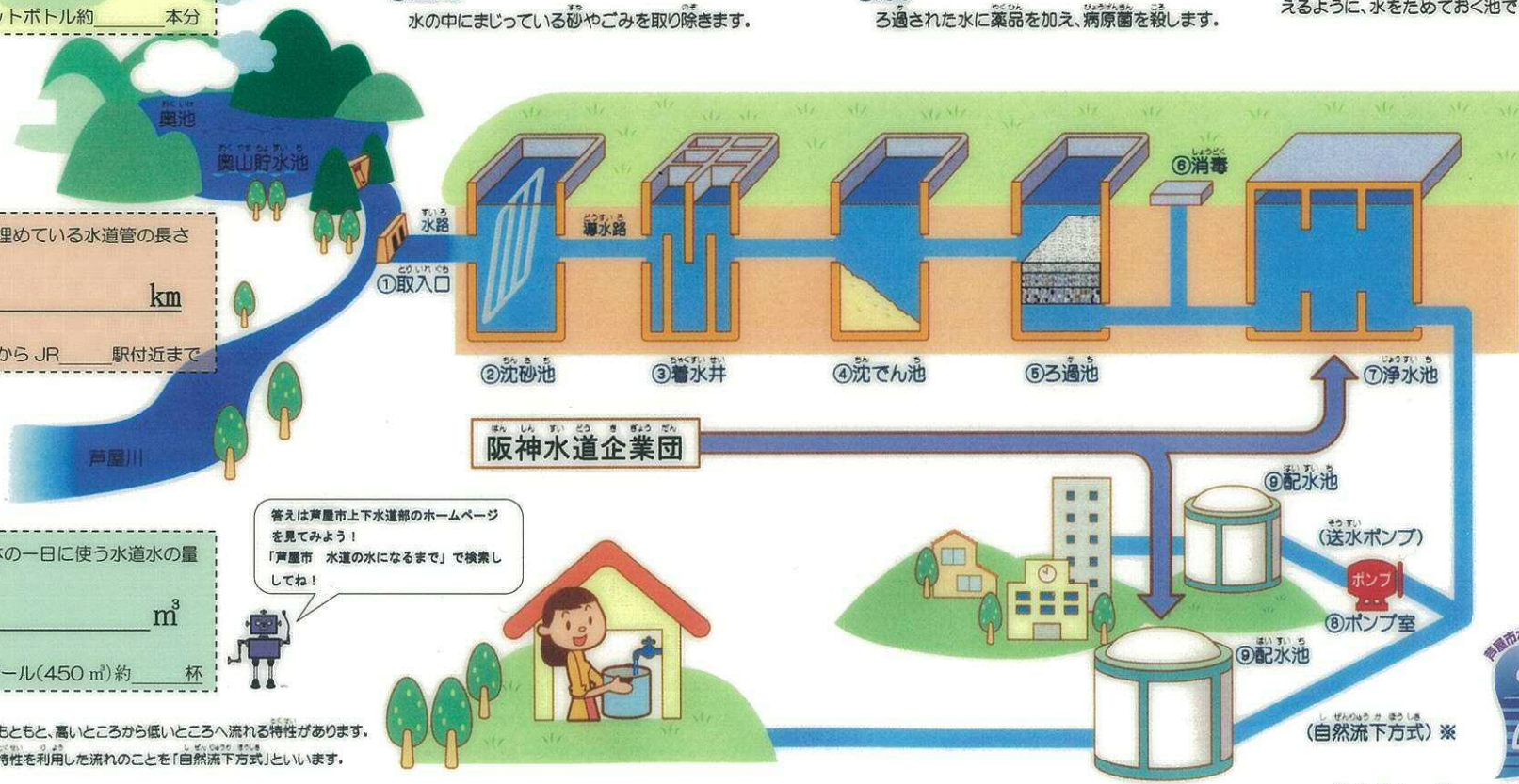
答えは芦屋市上下水道部のホームページ  
を見てみよう！  
「芦屋市 水道の水になるまで」で検索し  
してね！



※ 水はもともと、高いところから低いところへ流れる特性があります。  
この特性を利用した流れのことを「自然流下方式」といいます。

- ③着水井  
浄水場へ流れ込む水の水位を調節したり、水の量をはかります。
- ④沈でん池  
沈砂池で沈まなかった小さな砂やごみを、さらにここで池の底に沈めます。
- ⑤ろ過池  
砂や小石をたい積させた層に水を通し、水の中に含まれている不純物や細菌などを取り除きます。
- ⑥消毒  
ろ過された水に薬品を加え、病原菌を殺します。

- ⑦浄水池  
きれいにした水をためておいて、配水池に送るための水の量を調節します。
- ⑧ポンプ室  
水をポンプの力によって、配水池へ送ります。低いところにある配水池へは、自然の力で流れ込むので、ポンプは使わない方法もあります。
- ⑨配水池  
みんなの家や学校などで、いつでも水道が使えるように、水をためておく池です。



飲もうよ、じゃ口のおいしい水！